

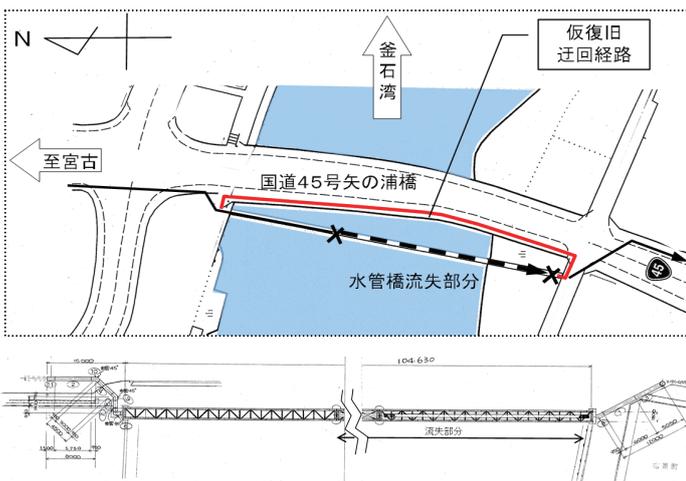
特別部門

東日本大震災で流失した水管橋の迅速な仮復旧の実現

岩手県 釜石市

早期実現のポイント

- (1)「迅速な仮設経路の設定」 道路・橋梁管理者の迅速で柔軟な対応⇒工事の早期着手が可能に！
- (2)「迅速な資材調達と施工技術の確保」 地場産業・鉄鋼関連業者との連携⇒短期間での施工が可能に！



釜石市では東日本大震災の津波により処理場・ポンプ場計5箇所が被災したほか、幹線管渠においては流末近くに位置する矢の浦水管橋（全長 105m）が2/3ほど流失しました。

矢の浦水管橋には、総汚水量の約8割が流入することから、何よりも早急な送水経路の確保が至上命題であり、応急仮復旧として、隣接する国道45号矢の浦橋の歩道上に送水管を仮設する方針としました。

管径は700ミリと大口径であり、短期間での入手は困難と想定されましたが、釜石市の「地場産業」である鉄鋼産業のグループ会社より迅速、かつ、適切な対応をいただき資材の早期納入と施工の即時対応が可能となりました。

国道45号矢の浦橋歩道部への管路設置に係る道路・橋梁管理者の迅速な対応を含めた官民連携により、原形復旧であれば、本来、年単位の期間を要するところ被災から1ヶ月あまりで応急仮復旧を完了することができました。